

## 新春挨拶

### 新年のご挨拶

一般社団法人日本作業船協会 会長  
武井俊文



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。  
皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東日本大震災をはじめここ数年の自然災害により避難生活を余儀なくされておられる皆様が希望を見いだせる新年を迎えておられることを切に祈っております。

昨年も自然災害が各地で頻発し、自然の脅威が年々激しくなっているようです。ハードとソフト両面からの強靱化社会を築くために施策の一層の充実が期待されます。また、昨年に引き続きノーベル賞受賞者を輩出したことに、我が国の勤勉な姿勢と資質に大きな誇りを感じた次第です。

交通運輸分野では、国産初のジェット旅客機MRJが初飛行しました。製造業のすそ野がさらに広がり、航空機産業が我が国の基幹産業に発展することが期待されます。陸運においては、新幹線の北海道延伸やインド輸出が実現しますし、自動車産業は環境規制の厳しさに対応して基幹産業の一翼を担っております。

海運においては、訪日観光客の増加に伴い我が国港湾へのクルーズ船の寄港は2014年の1,204回42万人を大きく上回る勢いであり、地域活性化および地域経済へ大きく寄与し、寄港受入に対応するために既存施設の改良整備が進められております。

造船においては、経済的で環境負荷低減技術の導入等により2015年は新造船受注量が2,000万総トン前後となり世界の6割弱を占めました。依然として厳しい市況にあります。また、海底広域研究船や浮体式洋上風力発電装置など海洋関連技術の進展が見

られました。

作業船分野については、世界の浚渫船は1996年の2,478隻をピークに年々減少しており、2014年には1,766隻が稼働しております。2013年にオランダやベルギーに本拠地を置く4大浚渫会社が大幅な減船を実施した模様です。

2015年1月現在の我が国の作業船は、6,000隻が稼働しており、2010年時点からは微減が続いております。2013年および2014年に建造された作業船は274隻であり、徐々にではありますが新造船が増加している傾向も窺えます。建造船の特徴としては、グラブ浚渫船、起重機船、クレーン付台船などの起重機を搭載した作業船ならびに外洋や離島での海洋工事や資源開発などに従事する多目的作業船の建造が目立ちました。

弊協会においては、自然災害の多発に備えて、被災状況を迅速に把握するために、気球およびドローンを活用した空撮技術の開発、ならびに大型油回収船や港湾業務艇の災害対応技術について力を注いでおります。また気象海象が予測値を越え、作業船の走錨や係留鎖破断などの事故が多発しているため、係留に関する設計手法の調査収集を行っております。一方、ISO/TC8/WC11が中国主導で設立され、浚渫船の監視・制御システムに関する国際規格の作成作業が進められており、作成会議に出席し情報収集に努めてまいります。

本年も弊協会の事業推進に対しまして、会員の皆様のご指導、ご支援を重ねてお願い申し上げます。会員の皆様にとりまして本年が良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。